

キャリアパス — 職員の歩み —

Case1 総合職（大卒程度）



小学生時代にファミコンの「三国志」にハマって以来、歴史とゲームを愛好しています。最近、息子と大河ドラマを観て歴史について語り合う将来を夢見て、一緒に歴史ゲームを楽しんでいます。

吉田 一路

庶務部人事課長

平成12年4月 衆議院事務局採用
調査局地方行政調査室
(平成13年1月～ 調査局総務調査室)
平成15年8月 憲法調査会事務局
平成17年9月 委員部各課
平成19年1月 国際部渉外課
平成19年7月 庶務部人事課付
平成20年7月 外務省在中国日本国大使館へ出向
平成22年8月 庶務部人事課
平成24年10月 委員部各課
令和元年7月 委員部第六課調整主幹
令和2年7月 庶務部会計課監査主幹
令和3年1月 庶務部文書課総務主幹
(兼)庶務部文書課新型コロナウイルス感染症対策室長
令和3年7月 委員部総務課長
令和4年1月 委員部調査課長
(兼)委員部第六課長(兼)委員部第七課長
令和5年1月 委員部調査課長
令和5年7月 庶務部人事課長

入局

就職氷河期真っ只中の平成12年に衆議院事務局に入局。きっかけは大学の就活室に置いてあった採用パンフレット。入局直後、小淵総理緊急入院のニュースに騒然となる職場を見て、永田町の世界に身を置いたことを実感する。

調査局地方行政調査室（現総務調査室）

最初の配属先は地方行政調査室。学生時代全く触れたことのない地方行政の担当に。先輩調査員の指導を受けながら専門書や関連資料を読み込む日々。調査室では、新人もベテランも同じ「調査員」として資料作成や様々な調査依頼に対応する。議員や秘書はその道の専門家である調査員として接してくるため、「早く一人前にならないと」と焦りを感じながら過ごす。

憲法調査会事務局（現憲法審査会事務局）

入局から3年、初の異動先は憲法調査会事務局。調査業務を担当。在任中は「衆憲資」と呼ばれる参考資料の作成と最終報告書の取りまとめ作業に従事。法律の専門家である法制局出身の同僚に囲まれ、法的思考力や論理的思考力の重要性を学ぶ。700頁余りある最終報告書が完成した際は感慨ひとしお。

委員部（3番手～2番手）

平成17年夏、委員部に異動。初の運営部門。慣れないライン型業務に戸惑いつつも、議員が論戦を交わす最前線での勤務に、緊張感と高揚感が交錯する新人時代の感覚を思い出す。3番手時代は次第書作成や答弁者調整等の業務に従事。当時の次第書は手書きで作成しており、悪筆な私はとても苦労した。先輩からは「字は心。相手に伝えたいという気持ちがあれば、きちんと読んでもらえる」と励まされた（？）

国際部渉外課

在京大使館のスタッフと英語でやり取りする機会が多く、語学力の必要性を痛感。スリランカ議会議長訪日時に地方視察に随行し、普段非公開の場所を見聞する貴重な機会を得る。

庶務部人事課付（外務省中国課）

平成19年夏から1年間、人事課に籍を置いたまま、実際は外務省中国課で勤務し、日中交流を担当。日中国交正常化35周年の節目の年で業務は多忙を極めた。タクシー帰りが当たり前で、超過勤務手当が本給を超えるという経験も。衆議院事務局の職場環境がいかに恵まれていたか痛感する。

出向（外務省在中国日本国大使館）

平成20年夏から2年間、北京の日本国大使館に出向。政治部に配属され日中政治を担当。事務局初の出向ポストで前任がおらず、自分の居場所を一から作り上げる苦労があった。在任中、北京五輪など国際行事が多くあり、訪中する政治家のアテンドを多数行う。初の海外生活に外交官としての業務。これまでの常識が通用しない場面も多く、自身の価値観を見つめ直す機会にも。

庶務部人事課

帰国後、人事課法規係に配属。課長補佐として初めて係の責任者である「キャップ」になる。法規係では職員法規と職員倫理を主に担当。人事当局側として臨んだ組合交渉、公務員倫理の研修講師、職員法規改正の条文作成など初めて尽くしの業務で新鮮だった。キャップになり組織を代表して外部とやり取りする機会が増え、職責の重みを自覚するように。

委員部（キャップ）

二度目の委員部勤務。今回はキャップとして委員会運営に責任を負う立場。与野党が対峙する委員会は予定調和の議事ばかりではない。予期せぬ事態を想定し事前に備える危機察知能力と事態が発生した場合に冷静に対処する危機管理能力の双方が求められ、会議中は常に緊張を強いられる。だが、難しい委員会を無事やり終えた時に感じる心地よい疲労感は何ものにも代え難い。多くの委員会を担当したが、TPP法案やIR法案など大型法案が集中した内閣委員会時代、総理以下全閣僚が出席する予算委員会時代が印象深い。

管理職昇任

令和元年夏、管理職に昇任。プレイヤーからマネージャーへと立場が変化していく中で、自部署の業務完遂のために果たすべき役割を模索し実践する日々。未経験部署での勤務や新設部署の立ち上げなど挑戦しがいのある仕事にも恵まれ、まだまだ成長させてもらっている。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局と聞いて、国会という狭い世界の組織というイメージを持たれる方もいるかもしれませんが。しかし、私のキャリアパスからも分かるように、実際には調査、運営、渉外など多彩な業務、永田町、霞が関、海外と様々なフィールドでの勤務と非常に多様性に富んだ職場です。仕事に求めるものは人それぞれ異なりますが、衆議院事務局にはその多くの思いに応えられる懐の深さがあります。「国会で働くのも面白そう」、そんな皆さんの志望をお待ちしています。

Case2 一般職（大卒程度）



深谷 陵子

経済産業調査室次席調査員

平成5年4月 衆議院事務局採用
庶務部人事課
平成6年12月 渉外部国際会議課
(平成9年7月～ 国際部国際会議課)
平成10年7月 調査局予算調査室
平成13年4月 環境省へ出向
平成15年7月 庶務部人事課付
平成15年8月 議事部議案課
平成17年9月 議事部議事課
平成21年8月 調査局決算行政監視調査室
令和元年7月 調査局予算調査室
令和3年7月 調査局経済産業調査室次席調査員

劇団四季のミュージカルを観に行くのが大好きです。特にお気に入り「ライオンキング」でこれまでに5回は行っています。ストーリーは分かっているはずなのに、毎回同じところで感動して涙しています。

調査局

早いもので衆議院事務局職員となり30年が経過しましたが、その半分以上は調査業務に携わっており、予算、決算行政監視、経済産業の3調査室を経験してきました。現在の所属である経済産業調査室の所管は中小企業政策、通商貿易・経済協力、エネルギー政策等多岐にわたっており、国会の開会・閉会を問わず、日常的に議員から多種多様な調査依頼が舞い込みます。近年、複数の省庁に広くまたがる政策が多いため、依頼内容についても他の調査室の所管と重なることから、他室に協力を求め役割分担しながら対応するケースが頻繁にあります。この調整作業に苦勞することも少なからずありますが、質の高い回答を作成するためには必要な作業となります。調査局は議員へのサービス部門であり、どれだけ的確に相手のニーズに応えられるかが調査員に求められる能力であると思います。

出向（環境省）

係長時代に環境省へ出向し、国内や外国産の希少野生動植物種の保全等に関する野生生物行政等に携わり、環境大臣の許可に関する業務等を経験しました。例を挙げると、動物園にいる「トラ」は法律に基づき国際希少野生動植物種に認定されているため、環境大臣の許可がなけ

れば、A動物園からB動物園への譲渡等が勝手にはできません。両方の動物園から譲渡目的等の必要事項を記載した許可申請書の提出を受け、環境省で精査・確認し、譲渡を許可することになるのですが、許可と言っても動物と言えは犬や猫といったペットレベルの知識しかなかった私にとっては、全くの門外漢であり、最初の頃はとまどうことが多々ありました。立法機関である国会とはかなり異なる世界でしたが、様々な場面で色々な方に助けられ、いい経験になったと実感しています。

議事部

入局11年目に議案課に配属となり、「議員提出法律案」や議員が内閣へ文書で質問する「質問主意書」を受理する業務等を経験した後、本会議の運営事務を行う議事課に異動しました。議事課時代で印象に残っているのは、法律案の再議決が行われたことです。当時は衆参両院でそれぞれに多数派を占める会派が異なるいわゆる「ねじれ国会」であり、衆議院で法律案を可決しても、参議院で否決されてしまうケースが何回もありました。その場合、憲法の規定に基づき、再度衆議院の本会議において、出席議員の3分の2以上の多数で再び可決しなければ法律は成立しません。衆議院の多数派の議員構成はこの条件を満たしており、再議決自体は可能でしたが、否決された法律案の再議決について

は、昭和26年に1回行われたのみであり、どのように議事運営を行うのかについて課内で慎重に議論を重ねました。本会議で再議決が行われた翌日、「57年ぶり2例目の再議決」と大きく報道されていたのを覚えています。

受験生へのメッセージ

振り返ると、公務員志望であった私も「衆議院事務局」という就職先をよく知らず、具体的な仕事のイメージはあまり持っていませんでした。また、国会と言っても立法に関わる部署だけでなく、様々な部署があります。私自身、前述した業務の他に、人事課で職員の給与・法規に関わる業務や国際部で議員の国際会議派遣等に関する業務にも携わりました。学生の皆さんも幅広い業務を経験し、自分の特性を活かしてキャリアアップできる可能性があると思います。

また、女性職員数が多いのも衆議院事務局の特色の1つではないでしょうか。調査局について言えば、以前は各調査室の女性調査員は1名だけという部屋も多かったのですが、現在は女性が半数近くを占める部屋もあり、女性にも働きやすい環境になっています。

衆議院事務局のイメージは堅いと思っている学生の方も多いと思います。でもいったんその考えを振り払って、一歩足を踏み入れてください。来年の春に皆さんと働けることを楽しみにしています。

キャリアパス — 職員の歩み —

Case3 一般職（大卒程度）



飯嶋 正雄

委員部総務課長

平成4年4月 衆議院事務局採用
運輸委員会調査室
平成8年7月 委員部各課
平成13年7月 国土交通省へ出向
平成15年9月 調査局国土交通調査室
平成22年7月 委員部各課
平成26年12月 副議長秘書
平成29年10月 委員部各課
令和2年7月 委員部第七課調整主幹
令和3年7月 委員部第二課調整主幹
令和4年7月 委員部第二課長(兼)委員部第三課長
令和5年1月 委員部総務課長

休日は「乗り鉄」として仲間と各地を旅行し、地元料理や景色を満喫していましたが、コロナ禍のなか新たな趣味としてメダカ飼育に目覚めました。睡蓮鉢の中で気持ちよさそうに泳ぐ姿に癒されています。

入局

平成4年に衆議院事務局に入局。採用パンフレットを見て、それまで知らなかった国会職員という仕事に興味を持ったのがきっかけ。

運輸委員会調査室（現国土交通調査室）

初めての職場で緊張の毎日。業界用語に戸惑いながら、審議会の答申や新聞、業界紙等で情報収集に努めた。メイン業務の一つである議員からの調査依頼対応は、上司の指示でデータや資料を揃えることが中心ではあったが、係員でも説明を任される機会があり、「よい資料をありがとう」と言っていただけときはとても嬉しく、やりがいを感じた。

委員部各課（4番手）

4番手と呼ばれる一番若手として、委員会関係文書の起案、委員連絡、答弁者の到着確認などの業務を任された。秘書等からの問合せに適切な回答ができず上司に対応してもらうなど、知識不足を痛感することが多く、先輩に疑問点を質問したり、同期と情報交換や法規・先例の勉強に励んだ。色々な委員会を経験するために部内異動も多く、複数の委員会を経験。刻々と変わる状況を担当全員で共有できる体制になっているため、チームで仕事をしている一体感を感じることができた。

出向（国土交通省）

専門工事業の振興や建設業の組合制度等を所

管する建設振興課に配属。厳しい競争のなかで新規事業等に取り組む事業者からの要望に対し、係長とはいえ担当者として直接対応を行うことも多く、今まで経験したことのない種類の責任の重さを実感する毎日だった。業界の課題を踏まえて検討を行っていたプロジェクトに予算がつき、実際に動き出すという一連の流れを経験でき、国会職員とは異なる貢献の仕方を実感した。

調査局国土交通調査室

出向時に経験した建設業のほか、道路、海事、観光などの分野を順次担当し、調査依頼対応や法案参考資料の作成、国内委員派遣の随行などの業務に励んだ。課長補佐となり担当分野の責任者を任され、議員に直接説明する機会が増えた。多忙な議員や秘書からは短時間でポイントを押さえた説明を求められるため、説明能力の向上にも努めた。

委員部各課（キャップ）

委員長、理事等の議員対応を行うキャップとして、委員長の指示のもと委員会運営事務を行った。議員や政府等、関係者の間で調整役を務めるためには相手の信頼を得ることが重要であり、常に誠実に対応することを心掛けた。理事懇談会等において法規や過去の事例等の説明を求められた際は、その場で適切な対応をしなくてはならず、前日に回答に窮する場面を夢に見るほどプレッシャーを感じることもあったが、国民生活にとって重要な法案の採決が瑕疵なく行われた時などには、役割を果たせたとい

う充実感を味わうことができた。

副議長秘書

国会の動き等を副議長に報告すること、本会議などに出席いただけるよう日程調整を行うこと、その他副議長の求めに応じて資料作成等を行うことや、宮中行事、海外派遣の随行が主な業務であった。在任中に、選挙制度、生前退位についての協議が行われ、副議長と共に行動することで、生の政治の動きを最前線で体験することができた。

委員部各課（キャップ）、各課調整主幹、第二課長(兼)第三課長

議院運営委員会の担当となり本会議運営についての知識を深めた後、委員部の管理職に。経験を踏まえた具体的なアドバイスができるよう努めるとともに、課員が能力を発揮できるよう、仕事をしやすい環境づくりを心掛けている。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局には、会議運営、調査などの独特の業務に加え、行政府への出向や秘書業務まで多種多様な経験を積むチャンスがあります。異なる業務を経験しながら自分の適性に合った分野を見つけ、仕事へのやりがいを感じることができる、衆議院事務局はそのような職場であると思っています。このパンフレットをご覧いただき、行政府のように直接的ではありませんが、議員活動を通じて社会に貢献できる仕事に関心を持っていただければ幸いです。

Case4 一般職（高卒程度）



石森 文淑

議事部請願課受理係長

平成10年4月 衆議院事務局採用
委員会各課
平成12年8月 管理部管理課
平成17年9月 委員会総務課
平成22年7月 秘書課
平成29年7月 議事部請願課

1年半前からポメラニアンを飼い始めました。犬を飼うのは初めてですが、飼ってみるととても可愛くて、今では我が家の宝です（笑）。愛犬のおかげでとても充実した毎日を過ごせています。一緒に旅行に行くのが目標ですが、いかんせん車が苦手なのでいつになることやら…。

入局

私は平成10年に衆議院事務局に入局し、委員部の調査課配属になりました。庶務担当ということで幅広い業務がありましたが、優しい上司や先輩方に恵まれ、仕事はもちろん、職務に対する姿勢などを学ぶことができました。

管理部管理課

管理部管理課では政党控室の勤務になりました。各会派の議事堂内控室には衆議院事務局職員が配置され、それぞれの控室の管理、本会議や委員会の連絡などといった、議員・会派が議会活動を円滑に行うための業務を行っています。私は所属議員22人の自由党控室に配属になりましたが、政局の行方を間近で見ることができるなど、その仕事はとてもやりがいのあるものでした。在籍中で特に印象に残っているのが、平成15年、当時の民主党と自由党が合併した「民由合併」で、その後の政権交代への第一歩ともいえる瞬間を体感できたことは大きな経験となりました。

委員会総務課

二度目の委員会では総務課に配属になりました。主に委員会会議録の製本と委員室の備品管理を担当しました。衆議院の委員室は国会議事堂内に5部屋、分館といわれる建物に8部屋ありますが、膨大な数の備品があり、椅子だけで

も何百脚と置かれています。備品の破損は、委員会運営に支障が出てしまう可能性があるため、管理には気が抜けません。縁の下の力持ち的な業務でしたが、とても貴重な経験になったと思います。

秘書課

秘書課では主に議長秘書の補佐と議長の来客への対応業務を行いました。議長から直接指示を受けることもあるため、常に緊張感が求められます。また、議員はもちろん、大臣や各委員長、海外からの賓客と接する機会もあり、立ち居振る舞いなども重要になります。在籍中は毎日が緊張の連続でしたが、三権の長の活動を間近で見ることができたことは、今後の職業人生においてとても大きな財産になったと感じています。

議事部請願課

現在の所属は議事部請願課というところで、主に請願の受付業務を行っています。請願というとあまりなじみがないかもしれませんが、憲法で定められている国民の権利で、国会の開会中は様々な種類の請願が持ち込まれます。例えば第208回通常国会では2900件近くもの請願が衆議院に提出されており、署名者数は約690万人にも上るなど、実に多くの人に関わっています。受付業務以外にも、議員や秘書、地方議会事務局、各種団体、一般の方への対応などが

あり、法規や規則についての知識も必要になります。また、請願の締切日近くなると一日に100件以上提出されるため、迅速に業務をこなさなければならず、繁忙期はかなり忙しくなります。しかし、請願課は衆議院事務局にある部署の中で、ある意味一番国民の皆さんの願意を知ることができる、とてもやりがいのある職場だと思います。今後も与えられた職務を全うできるよう、引き続き全力で頑張りたいと思います。

受験生へのメッセージ

私が公務員試験を受験した頃は就職氷河期でしたので、採用してもらえただけで有り難いという状況でした。そのため、衆議院事務局を選んだのも正直強い動機があったわけではなく、皆さんの参考にはならないかもしれませんが、しかし、きっかけは何だっていいと思います。私のように、最初は小さな興味しかなかった人間でも、入局後に上司、同僚に恵まれ、やりがいを感じながらそれぞれの業務と向き合っていくなかで、自分なりの成長を感じることができるまでになりました。衆議院事務局は誰もが生き生きと働ける職場だと思います。このパンフレットをご覧になった皆さんが少しでも興味を持っていただけたら、そして、いつか一緒に働ける日が来たらどんなに嬉しいことでしょう。